

# 令和5年度事業報告書

社会福祉法人 八代市社会福祉協議会



## 目 次

### 令和5年度主要事業実施状況

1. 事業総括	1
2. 社協組織体制基盤の確立	2
3. 地域福祉活動の充実強化	4
4. 福祉ボランティア及び福祉教育の推進	16
5. 相談支援事業の充実	20
6. 障がい者福祉の推進	26
7. 児童・母子・父子福祉の推進	26
8. 広報活動の充実	26
9. 在宅福祉事業の充実強化（介護保険事業等）	27
10. 令和2年7月豪雨に対する取り組み	29
11. 福祉施設利用状況	31
12. その他の事業	32
14. 校区福祉推進協議会事業報告	36

## 1. 事業総括

地域福祉を推進する中核的な機能を有する組織として、第4次八代市地域福祉計画・八代市地域福祉活動計画（令和2年度～6年度）に基づき、関係機関・団体と連携・協働しながら住民参加による地域福祉活動を展開してきました。

令和5年度は、5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、4年度までの様々な制限のかかった活動から通常の活動に変わった年でありました。ここ数年間のコロナ禍により「集まらない日常」から「集う日常」への移行がスムーズにできるように支援をさせていただきました。いきいきサロンには、令和5年度は開催回数延べ2,531回（前年比514回増）、参加者は延べ26,256人（前年比6,032人増）、となり、緊急事態宣言等が発出された令和2年度とくらべ開催回数と参加人数が共に2.5倍に回復しました。各校区福祉推進協議会の行事や研修会等も通常の開催へ戻りつつあります。

しかしながら、コロナ禍により生活が困窮する世帯の相談は依然と多く、相談者を取り巻く環境、家族関係など多様化、複雑化しており、面談をして相談者の状況を聞き取り、生活再建に必要な専門機関と連携、適切な制度につなぐなど支援を実施してきました。その他に今日食べる物がない、何日も食べ物を口にしていないなど、ぎりぎりの生活をされている相談者もおられ、命をつなぐために緊急食料等支援事業及び緊急一時支援事業等を実施し、困窮者（世帯）の支援を継続してきました。

また、今後利用の増加が見込まれる後見人事業において市民後見人養成講座は基礎講座（令和4年度）を修了された16名の内、フォローアップ研修を希望された14名に実施し、13名の方が修了されました。現在、2名の方が法人後見支援員として活動していただいております。

介護保険事業については、居宅介護支援事業（ケアプラン作成）は、利用者増と事務効率を行い黒字化ができました。通所介護事業所は、五家荘デイサービスセンターの職員配置をしたことから利用者の利用回数制限を撤廃することができたことにより、大幅な利用回数の増となったが、人件費支出の増に見合う収入と成らず、赤字決算となっています。さわやか荘については、利用者数の減に伴って赤字幅が大きくなっています。

第4次八代市地域福祉計画・八代市地域福祉活動計画の見直し時期となり、無作為による市民アンケート（3,000人）を実施し、1,055人からの回答を得ました。第5次計画へのご意見として計画の策定を進めています。

令和2年7月豪雨災害から3年を過ぎ、かさ上げ、輪中提等の公共事業が順次実施され、一時的に住まいを離れる方が転居先などの確保等について八代市と協力して支援しました。また、地域コミュニティ再生の観点から、地域の集まりであるサロンや「みんなでカフェ」等を実施し、交流の機会を設けました。現在も継続して支援しております。

また、地域支え合いセンター活動の中でボランティア団体や個人ボランティアの協力を得て誕生した「にじのふくろプロジェクト」被災地から被災地へ気持ちをつなぐプロジェクトが進行しています。令和6年1月に発災した能登半島地震で被災され、「にじのふくろプロジェクト」が始まるきっかけになる活動をされている石川県輪島市の方々へ送る準備を進めています。300袋（セット）を目指し、プロジェクトが進行しています。

一方の財政基盤の確立については、自主財源の大きな比重を占める香典返礼寄付金の確保のため、社協だよりによる啓発と各葬儀社へのチラシ配布、各種会合でのお願い等を実施してきました。実績として787件（前年度比84件減）、8,913.9千円（前年度比1,797.1千円減）と前年度より減額となりました。

以下、令和5年度事業実績についてご報告いたします。

## 2. 社協組織体制基盤の確立

### (1) 理事会・評議員会の開催状況

理事会・評議員会等の審議内容等については以下の通り。

会議名	年月日	出席者数	主な議題
第1回理事会	令和5年6月8日	理事 8名 監事 2名	1. 令和4年度事業報告について 2. 令和4年度決算について 3. 新役員（理事・監事）候補者の選任について 4. 新評議員候補者の推薦について 5. 評議員選任・解任委員の選任について 6. 評議員選任・解任委員会の開催について 7. 評議員会の開催について 8. 令和5年度補正予算（第1号）について  報告1 会長(理事長)及び、常務理事(業務執行理事)の職務執行報告について 報告2 ハラスメント行為について
第1回評議員選任 ・解任委員会	令和5年6月9日	3名	1. 評議員の選任について
第2回理事会 【決議の省略により開催】	令和5年6月27日	—	9. 会長の選定について 10. 副会長の選定について 11. 常務理事の選定について
第1回評議員会	令和5年6月27日	27名 監事 1名	1. 令和4年度事業報告について 2. 令和4年度決算について 3. 新役員（理事・監事）の選任について 4. 令和5年度補正予算（第1号）について
第3回理事会 【決議の省略により開催】	令和5年12月19日	—	12. 理事の選任（案）について 13. 令和5年度補正予算（第2号）について 14. 評議員会の開催について

第2回評議員会 【決議の省略により開催】	令和5年12月27日	—	5. 理事の選任について 6. 令和5年度補正予算（第2号）について
第4回理事会	令和6年3月15日	理事 11名 監事 2名	15. 積立金規程の制定について 16. 令和5年度補正予算（第3号）について 17. 事務局職員給与規程の一部改正について 18. 令和6年度事業計画（案）について 19. 令和6年度予算（案）について 20. 役員等賠償責任保険契約の締結について 21. 利益相反取引に該当する契約の締結について 22. 経理規程の一部改正について 23. 評議員会の開催について 報告3 会長(理事長)及び、常務理事(業務執行理事)の職務執行報告について 報告4 経営理念について 報告5 訴訟について
第3回評議員会	令和6年3月27日	25名	7. 令和5年度補正予算（第3号）について 8. 令和6年度事業計画（案）について 9. 令和6年度予算（案）について

#### （2）監査の開催状況

会議名	開催期日	出席者数	内 容
監査	令和5年5月30日	2名	1. 令和4年度事業報告について 2. 令和4年度決算について

#### （3）苦情解決体制の整備

社会福祉法人八代市社会福祉協議会苦情解決に関する規程により、第三者委員として3名を委嘱し苦情解決体制を整備した。

年1回の定例開催において必要な助言を受けた。

会議名	開催期日	出席者数	内 容
苦情解決第三者委員会	令和6年3月11日	3名	1. 令和5年度苦情等（意見・要望含む）の報告

### 3. 地域福祉活動の充実強化

地域において誰もが安心してくらせるまちづくりのために下記の事業を行った。

#### (1) 小地域ネットワーク活動

①高齢者等の「孤立死」や親族・地域とのかかわりを持たない「社会的孤立」状態を防ぐため、住民の「助けあい・支えあい」意識の醸成を図り、地域の実情に沿った住民の見守り体制の構築を進めた。

- ・ふれあい委員 1,652名 (昨年度比：55名減)
- ・見守り対象者 3,621名 (昨年度比：155名減)

#### ②ふれあい委員研修会・連絡会、福祉座談会の開催

高齢者等の見守り活動を通しての気づきや地域での困りごと等について、住民同士でも出来る支え合い活動について話し合った。

- ・ふれあい委員研修会・連絡会 全20地区 1,414名参加

- ・福祉座談会 16地区（代陽、八代、植柳、麦島、松高、高田、金剛、郡築、宮地、日奈久、昭和、龍峯、千丁、鏡、東陽、泉）

【評価・課題】 ①コロナが2類から5類に引き下げられ、4年ぶりに全校区で「ふれあい委員の研修会」が開催された。

ふれあい委員のみならず、市政協力員、自治会長、民生委員児童委員など地域の関係者が寄り合い、地域のみんなで気に掛け合う大切さについて、また地区によっては民生委員のことも学びたいとのことから、「民生委員児童委員とは？」についても研修した。

②高齢者の見守り活動を通じて気づきや地域での困りごと等を話し合う「福祉座談会」では見守り関係に加え、生活支援コーディネーター事業と絡めて実施し、地域における生活課題の共有、および、課題解決に向け、地域での支え合う仕組みづくりを検討する場として機能していた。

※ (6) 生活支援コーディネーター事業を参照

#### (2) 地域に根ざした校区福祉推進協議会活動の支援

①校区福祉推進協議会が、校区地域福祉活動計画を踏まえそれぞれの地域特性に応じ、創意・工夫を凝らした事業展開が出来るよう、引き続き社協職員をコーディネーターとして配置し校区福祉会の支援を行なった。

【評価・課題】 各校区福祉推進協議会に校区福祉コーディネーターを配置しているが、コロナの影響により、福祉会活動等の多くが中止となり、積極的な訪問支援活動ができなかった。それでも事業、会合等が開催される場合は、生活支援コーディネーター等も一緒に参加し、地域資源情報や他地域の取り組み状況等をお伝えした。

②校区福祉推進協議会に対し、活動支援として活動助成金の交付を行った。（活動内容の詳細は36～38ページ参照）

### ③八代市校区福祉推進連絡協議会への情報提供と連絡調整機能の強化

各地域の総合的な福祉向上を図るため、また、それぞれの地域性を踏まえた自主的な活動が展開されるよう、各種研修会等を開催した。

区分	回数	実施日	内 容
役員会	4回	4月、6月、8月、2月	4年度事業報告・決算、5年度事業計画・予算、情報交換、役員改選、市生活支援・介護サービス推進協議会委員の推薦、各種研修会、理事会の運営について
監査	1回	4月	4年度事業報告・決算について
理事会	3回	4月、6月、2月	4年度事業報告・決算、5年度事業計画・予算、情報交換、役員補充、各種研修会等について他
先進地視察研修	1回	8月	住民参加型の有償サービスについての施設研修（鹿児島県鹿屋市）
八代市ふれあい委員研修会	-	10月	●講義「地域での支え、支えられ活動の展開（見守りをきっかけに何ができるか）」 八代市地域支え合いセンターアドバイザー 山下弘彦氏 ●取組発表 ①麦島東西町の取り組み ②興善寺町の「おしゃべり茶話会）
八代市ふれあいフェスタ【八代市地域福祉推進フォーラム】（共催事業）	-	11月	八代市における福祉の現状等を広く市民に周知啓発し、福祉の向上に対する理解と協力を深めるために開催(5年ぶりの開催) ●市民ホール YYドリームズによるオープニングアクト、福祉功労表彰、一人金婚式、ふれあい音楽発表会、講師（一社）TEAMはちどり代表高木代表による「バラバラバンザイ」 ●多目的ホール 参加施設団体による活動紹介パネル、作品展示。フォトブック作成ワークショップ、生活支援コーディネーター通信、サロンニュースの展示。 ●多目的広場 食バザー

【評価・課題】 2025年問題を間近に控え、自助や互助の大切さ、特にお互い様の支え合い活動が重要になってくることから、ふれあい委員研修会等において、地域で支え合う仕組みづくりが必要であることを学び、住民主体で取り組む意識の醸成の努めた。

一過性のものではなく、一年を通じて地域住民同士がお互い様の気持ちで、ちょっとしたお困りごとを有償（低額）で支援する住民参加型有償サービスを実施している鹿児島県鹿屋市の事例を学びに訪問、熱い思いのキーパーソンを中心にお互いに協力し合いながら地域で安心して暮らし続けたいというその取り組みを聞くことができ、今後の活動の参考になった。

校区単位でも住民主体の助け合いサービスを学びたいと、二見校区福祉会は熊本市大和地区社協（植木町）、坂本校区福祉会では山都町社協へ訪問した。

(3) 第4次八代市地域福祉計画・八代市地域福祉活動計画（愛称：みんなのえがおハ代プラン）【令和2年度～令和6年度】  
市健康福祉政策課と社会福祉協議会との合同事務局を設置し、評価委員会による評価を受けながら、計画に基づき事業等を進めた。

区分	日程	調査内容等	内 容
評価	令和6年3月	策定・評価委員会	令和5年度における活動状況等について報告

(4) 第5次八代市地域福祉計画・八代市地域福祉活動計画（愛称：みんなのえがおハ代プラン）【令和7年度～令和11年度】  
計画策定へ向けた動き

区分	日程	調査内容等	内 容
研修	令和5年11月		包括的な支援体制の構築に向けた市町村研修会(重層的支援体制整備事業実践社等による取り組み事例の発表)益城町、宇城市、厚劳省担当官による事例報告等
地域福祉に関する状況把握	令和5年9～10月	市民アンケート内容検討	前回実施内容をベースに現状に即した内容に整理した。計3回
	令和5年11月	市民アンケート実施	市内居住の18歳以上の方、3000名を無作為抽出し、郵送による配布、回収を行った。QRコードによるWEBアンケートも併用。回答数1,055、有効回収率35.2%
	令和6年2月	市民アンケート結果の分析	市内居住の18歳以上の方、3000名を無作為抽出し、郵送による配布、回収を行った。QRコードによるWEBアンケートも併用。回答数1,055、有効回収率35.2%
その他	令和6年2月	周知	校区福祉会理事会において次期計画について、スケジュール等の周知

【評価・課題】市民3000人アンケートについては、前回同様、有効回収率が35.2%と低い数値となった。認知度の設問においても、社協のことを知っている方は49%であり、民生委員児童委員、いきいきサロンに続き3番目、ふれあい委員、校区福祉会においても5番目、6番目の結果であった。もっと市民の皆さんに福祉や社協のことについて興味をもって頂けるよう引き続きPR活動と行いたい。「手助けしてほしいこと」としては、独居高齢者の見守りや、災害時の安否確認など「見守り」に関することが上位を占め、買い物・通院の支援、家具や電球の取り換え、草刈りなどについても一定数あった。引き続き、ふれあい委員による見守り活動やお互い様による支え合い活動の必要性を感じることができた。

6年度は以下の内容を実施予定

- ①社協職員及び校区福祉会役員研修等の実施
- ②各校区福祉会活動計画を策定(校区での策定に係る協議を実施)
- ③市民・学生(高校生) ワークショップの実施
- ④関係団体アンケート・ヒヤリング
- ⑤策定評価委員会の開催

#### (4) いきいきサロン事業の推進 【支出額：15,539,708円】

①既存サロンでの自主開催を促すため、校区単位での「サポーター研修会」を開催し積極的な支援を行った。

9校区実施（太田郷・麦島・八千把・昭和・坂本・千丁・鏡・東陽・泉）

【評価・課題】 地域において自主開催が行われるためには「サロンサポーター」の存在が大変重要であり、校区福祉会と協力しながら、サロンで活用できるレクリエーションなどを学ぶ研修会を実施した。

②「美味しいお茶の淹れ方講座」の開催

2か所【植柳上1(8/30)・郡築12番町(9/6)】

【評価・課題】 サロンについては、その殆どが月1回の開催であり、お世話役のサポーターによれば、参加者の笑顔に癒され、自分自身が張り合いになっているとおっしゃる方もいれば、その準備が億劫だと思っていらっしゃる方もいらっしゃる方もいるとのことであり、そのような地域には、特にレクリエーションもなく、ただ寄り合いお茶のみするだけでも健康長寿やフレイル予防に寄与することを伝え、その他の地域へは月2回目のサロンとして、お茶のみだけのサロンを推奨するため。泉茶業振興協議会の協力により、標記講座を開催。美味しいお茶の淹れ方も学びながら、地元の泉茶を美味しいいただけるということで好評を博した。折角の機会でありより多くの方に聞いて頂きたく、校区単位での開催も検討したい。

③地域包括支援センター等の関係機関と連携し、介護予防を重視したプログラムを取り入れ下記のとおり開催された。

校区名	代陽	八代	太田郷	植柳	麦島	松高	八千把	高田	金剛	郡築	宮地
サロン設置数	8	5	19	6	12	11	16	10	14	7	8
開催回数	94	77	284	209	202	125	229	161	180	59	99
参加者数	946	714	3,565	2,566	2,095	1,659	2,263	1,482	1,650	704	906

校区名	日奈久	昭和	二見	龍峯	坂本	千丁	鏡	東陽	泉	合 計	前年度比較増減
サロン設置数	13	7	12	6	16	12	13	7	14	216	-11
開催回数	71	49	60	59	129	105	129	38	172	2,531	514回
参加者数	734	408	605	401	948	1,461	1,759	371	1,019	26,256	6,032人

**【評価・課題】** サロン設置数は11カ所減となった。これはコロナにより、ずっと休止中であったサロンがそのまま、フェードアウトした形である。社協としても、コロナの状況も見ながら、再開へ向けお声かけや支援を呼びかけるも、長らく休止状態であったため、キーパーソンの方の腰も重く、難しい状態になってしまった。社協としては、引き続き再開支援をサポートしていきたい。サポーターの高齢化等もあり、次世代の担い手がなかなか見つからなくやむなく休止中の所もある。サポーターの育成にも力をいれていき、休止しなくてもよい環境をつくっていく必要がある。

コロナ以前に約40,000人だった参加者数は、R2～3年度はコロナにより10,000人まで減少、R4年度は20,000人台、R5年度は26,000人台まで回復してきた。引き続き、円滑な再開へ向け支援して行きたい。

④いきいきサロンの内容充実並びに活性化を図るため、プログラムボランティアの養成講座等を開催し現状理解と指導力を高めた。

事業名	実施日(予定日)	参加者数	内 容
(第1回) いきいきサロンレクリエーション講習会～初級編～	9月15日(金)	40名	地域のサロン活動や交流事業等で役立つレクリエーションの指導技術を学び、サロン活動の活性化につなげる。
(第2回) いきいきサロンレクリエーション講習会	2月22日(木)	40名	

**【評価・課題】** いきいきサロンを支えているボランティアの皆さんと、マンネリを防ぐべく新しいレクリエーションと一緒に学び日々の活動に活かして貰った。

⑤各サロン間の交流を深め、いきいきサロンの活性化を図るためにサロン大会を開催した。

事業名	実施日(予定日)	参加者数	内 容
八代市いきいきサロン大会	11月10日(金)	336名	・サロン活動功労者表彰 ・講演 ・サロン発表

**【評価・課題】** 平成音楽大学 教授 村橋和子氏より「音楽療法を通して健康を考える」の演題で講演。美空すずめとして美空ひばりさんのモノマネを織り交ぜ会場も大いに湧きました。オープニングアトラクションとして代陽校区いきいきサロン の皆さんによる「サロンで元気」「サロン音頭」、また 鏡校区 芝口サロン、ひなたぼっこ 健康レクダンス の皆さんによる演技の披露があり、会場は大いに盛り上がった。

⑥各サロンの活性化を支援することを目的にサロンバスの運行を行った。

使用状況		〈主な行き先〉
利用回数	30回	遙拝神社・ふれあいセンター泉・東陽交流センターせせらぎ・妙見宮・くまもんポート・春光寺・八代宮・坂本温泉元湯・エコエイトやつしろ・松浜軒・イオン八代・坂本温泉クレオン・くまモンポート・桜十字ホールやつしろ・日本製紙
延用者数	375名	ハ代工場・ハ千把コミセン・中津道みんなの家

【評価・課題】 近年は老朽化のため突然の故障等が続き、安全確保の面で不安が残っていたため、5年度末をもって廃車となった。

⑦やつしろふれあい交流センターひなたぼっこを利用してサロン活動の活性化を図った。

開所日数 91日 利用者数1,088人													
<利用内容>													
•作り物（柿渋染め、牛乳パックの小物入れ、多肉植物寄せ植え、肩たたき棒、ステンドグラス風しおり、押し花のマグネット、マクラメ編、キャンドル、正月飾り、パンチニードル、かんたんかわいいお雛様、木目込みてまり、布でコースター） •レクダンス、健康マージャン、サロン大会の練習、各種会議、にじのふくろ、社協ツアーズ、ボランティアサークル（はなみずき）、ひなたdeカフェ													
開所日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	6	5	7	7	7	9	9	9	6	8	11	7	91

利用者数内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総計
サロン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
イベント	18	11	48	40	30	46	41	48	42	43	76	47	490	1,088
その他	32	44	87	32	48	45	70	66	33	45	78	18	598	

【評価・課題】 本町1丁目の地域支え合いセンターの一部を借りて開催。

日を追うごとに、利用者も増えてきている。5年度はひなたぼっここの周知もかねて商店街のひな祭りイベント「やつしろのお雛祭り」での作り物の参加。職員2名が講師となり、かわいい雛飾りなどをレクチャー参加者には喜んで頂けた。

家でじっとしていても・・・や、昼間一人で行くところもなく・・・と相談があった方の居場所にもなっていて開催すれば、毎回楽しみに来られる。集える場所の提供に徐々になりつつあるが、健康マージャンは人数が多くなり駐車場に苦慮しているところである。

## (5) 生活支援コーディネーター事業（八代市委託事業）【支出額：13,566,000円】

生活支援・介護予防に関する情報収集や地域課題の検討のための事業を下記のとおり行なった。

### ① 地域資源及び地域ニーズの把握

#### ● 社会資源の把握

- ・八代市地域資源一覧表の情報更新作業再調査を実施。新規登録として14件のサービス  
計89サービスの登録。※「居場所・交流」が増加
- ・八代市地域資源一覧表の配布（地域協議会長、市婦人会理事、市老連理事、民児協、校区福祉会会长、  
地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、市高齢者支援課、生活衛生組合活性化塾、八代市地域  
支え合いセンター相談員など 530冊）  
※社協HPにも掲載し、より多くの方に見て頂けるようになった。  
配付後、関係機関から移動販売、乗り合いタクシー、家事援助、集まる場所、配食、配達などについて問合せも多々あり  
調整した。

#### ● 社会資源の維持・利用調整・周知啓発

- ・鏡地域での予約制乗合タクシーの試乗会を生活支援コーディネーター通信にて他校区においても機会あるごとに周知した。  
その結果、地域のキーパーソンの「乗ってみらんと分からんね」から産島線の試乗会を実施した。試乗会参加者による  
報告会も実施し昭和校区での試乗会も回数を重ねた（計5回）。報告会や試乗会の中では市担当課（地域政策課）の職員  
も交え、意見交換も実施している。
- ・泉校区で実施した座談会にて「今後のために乗合タクシーの利用方法を勉強しておきたい」という地域の声から予約制  
乗合タクシー試乗会を実施した。1回目は「勧める立場で知る必要がある」と民生委員で実施後、参加した民生委員  
から地域住民に呼びかけられ2回目の試乗会も実施した。
- ・近くに商店がなく公共交通機関も限られ、高齢者が多い中山間地を中心に、移動販売業者を地域に繋いできたが、販売  
業者も採算ぎりぎりのところで実施している現状が伺えた。万一移動販売が撤退となれば地域においては日常生活に  
大きな支障をきたすため、継続可能のためにできることを関係機関と一緒に今後も検討していく。
- ・「八代市買い物支援事業者原油価格高騰対策支援事業」について市企画政策課と移動販売業者を含めた意見交換会を実施  
するために打ち合わせを行った。（6年度実施予定）

## ●生活支援ニーズ調査

- ・地域の集まり等に度々顔を出して情報を発信してきたことで生活支援コーディネーターの役割が理解され、地域住民から地域の宝や困りごとの情報が寄せられるようになっている。地域住民との話の中で投げかけられた質問へ丁寧に対応してきたことから、困りごとや相談が多く寄せられるようになり、地域の生活課題を把握することにもつながった。  
令和5年度は134件(R6.3.1現在)相談があり、地域住民や関係機関への調整等に努めた。
- ・郡塙・鏡校区では地域住民同士による有償の生活支援について、地域住民がどのように考えているか把握するためのアンケート調査を実施。日頃の付き合いのなかで支えあっていることを、有償で支援することに対しての抵抗感が強いことが分かった。
- ・坂本校区ではこれまでの調査結果を踏まえ、八代市・第6地域包括支援センターを中心に地域ケア会議等で関係機関と協議を重ね、買い物に特化したアンケートを全世帯を対象に実施した。
- ・町内単位で行われる高齢者一人暮らし交流会等に出席し情報収集を行なった。相談された困りごとは、関係機関と連携し解決に取り組んだ。

## ②福祉座談会の開催、住民参加型生活支援(支え合い)の推進について

- 座談会に限らず地域の会合等に出席し情報収集に努め、また、すでに日常的に住民同士で生活支援をしているケース等の周知を行った。
  - ・既にある互助の取組については、その意義を再確認する機会をもち、住民の意欲を高めさらなる取組の発展につなげた。また、取組のない地域には先進事例や大切さを伝え、互助の取組を始める気運を醸成している。
  - ・地域ケア推進会議に出席し、八代市の「訪問型サービスB」について検討した。

## ③ネットワーク構築

- ・各校区福祉会の会議への出席、市主催の元気支援会議、地域ケア会議、地域包括支援センター主催の地域ケア会議等へ参加するなど、各関係機関との情報交換の場を持った。
- ・地域資源の1つである「いきいきサロン」へも積極的に参加、地域住民との接点も増え、そこでニーズキャッチもできた。
- ・第2包括支援センター主催のやまびこネットワーク会議に参加し、地域の民生委員や施設のケアマネ等との交流を通して意見交換ができた。
- ・第6包括支援センターを中心に各関係機関と坂本町における新たな生活資源の開発会議を開催。ヤマト運輸や生協くまもと]等とともに買い物支援に係る取り組みがでないか協議を行った。

#### ④職員の配置

- 生活支援コーディネーター：4名配置(第1層コーディネーター1名、第2層コーディネーター3名)

#### ⑤周知・啓発活動

- 社協だよりに地域の宝や地域のキーパーソンの紹介を掲載。

- 生活支援コーディネーター通信の発行【630ヶ所 9,170枚配布】

- ・「地域の宝」である地域の様々な寄り合い、井戸端会議等へ訪問した様子を記したを通信を作成。また、それらを他町内
  - ・他校区の会合等で紹介、寄り合い等の意味やその素晴らしさ等を啓発した。

- ・コーディネーター通信も計100号以上発刊。

- ・「地域の宝」をさらに多くの方に知ってもらうために通信のパネル展示を実施した。

- ①イオン八代ショッピングセンター 令和5年7月19日～31日

- ②八代市ふれあいフェスタ（桜十字ホールやつしろ） 令和5年11月25日

- ③八代市役所 令和6年3月18日～25日

- ・生活支援コーディネーター通信【概要版】を作成し地域や関係機関に配布した。

- ・八代市ふれあい委員研修会にて、1校区の住民主体の取り組みを発表する機会を設けた。

- 活動を実践しているキーパーソンの話から、その活動を身近に感じ、やってみたいと思うきっかけとなった。

- ・SNS等を活用し幅広い世代に地域の取り組みや生活支援コーディネーターの活動を周知をした。

## ⑥八代市生活支援・介護予防サービス推進会議（第1層協議会）の開催状況

- 第1層協議会へ出席し事業の進め方の検討を行なった。

回数	開催期日	会場	協議内容	参加人数
1	令和5年6月28日（水）	市役所	(1) 八代市における生活支援体制整備事業について (2) 令和5年度生活支援コーディネーター事業計画について	23
2	令和6年3月19日（火）	市役所	(1) 令和5年度の活動報告について (2) 令和6年度の事業の方向性について	21

## ⑦地域住民による支え合い活動の取組み

住民同士による支え合いにより一層活発になるための「きっかけづくり」を目的に実施。

- 日奈久校区福祉会における「お互いさまの日」活動

各町内単位で実情に応じて実施した

### 【評価・課題】

新型コロナウイルスも第5類感染症へと移行し、地域ごとの行事やイベントも再開し、住民主体の寄り合いも増えている。八代校区でも毎日自宅の軒先に寄り合っている地域の宝を座談会を通して知り得た。その地域の宝を基に、「自然な見守り・見守られ・支え合い・助け合い」の形を例示し意識の醸成にも努めた。

近所付き合いの中でちょっとした手伝いをしている人がいるということは座談会等で把握しているが、活動の範囲を広げて生活支援の担い手や人材の発掘には至っていない。高齢になっても仕事をしていたり、地域での役割や趣味の活動などがあり地域活動への参加が難しい現状も見受けられる。日常的に住民同士での支え合いの形がある地域では、有償ボランティアをすすめても受け入れがむずかしい状況。地域によっては、これまでの先進地研修（有償ボランティア）を通して町内などの小さい単位から始めていきたいという地域もあるため、関係機関との連携も含め生活支援コーディネーターとしても地域の「やってみたい」を支援していきたい。

福祉座談会をキッカケにできた鏡町における乗り合いタクシー(どんかっちょ)。せっかく新しくできた地域資源であり、無くならないためにはある程度の利用が必要であることから、利用促進のため予約方法や乗車方法についての試乗会を実施。移動販売事業者の連絡調整、地域の宝をより多くの方に言い触らすために作成した生活支援コーディネーター通信の取り組みなど、八代市社協の取り組みについて、熊本県認知症対策課地域ケア対策室から視察したいとの申し出があり、市高齢者支援課と対応した。

## (6) 小規模法人のネットワーク化による協働推進事業（共同募金配分金事業）

全ての社会福祉法人は「地域における公益的な取組み」の実施が責務化されたが、小規模法人においては経営基盤や職員体制により、単独での実施が困難な状況にあるため、小規模法人を含め様々な機関が連携し、地域貢献の取り組みが促進されるよう、この事業を通じて各法人と取り組みに向けた連携を図るもの。

### ①複数法人連携による地域貢献のための協働事業（6園〔6法人〕が協力）

- 各法人で法人内及び地域住民への周知協力を依頼し、アルミ缶・新聞紙を収集し、社協へ物品寄付とする。その後集まった資源を業者へ持ち込み現金化する。(5年度実績 151,350円)

【協力：パール保育園、昭和保育園、いずみ保育園、あげまち保育園、太陽保育園、【新規】わかあゆ保育園】+八代市社会福祉協議会

- 現金化したのちに社協事業の小口資金貸付事業、緊急食料品等支援事業の支援の原資とする。

※支援の実績については「生活困窮者自立相談支援事業」報告を参照

### ②法人間連携プラットフォーム・③福祉人材確保・定着のための取り組み→未実施

#### 【評価・課題】

地域貢献の一環としての協働事業については6園よりご協力いただいた。現金化し、生活にお困りの方への緊急小口資金等の原資として活用させていただいた。また、Facebook等で保育園の協力によりアルミ缶を集めている旨の投稿をみた坂本でくっしこ隊の(市内・市外)メンバーからも趣旨に共感頂きアルミ缶の提供も頂いた。

## (7) 男性の地域デビューを推進する事業（共同募金配分金事業）

地域活動においては、大勢の女性が元気に活動しており、どちらかと言えば、男性の地域参加は少ない傾向にある。定年後、生活の大半を家庭で過ごすようになってから地域活動（町内活動やボランティア活動、気の合う仲間との地域貢献など）へ参加することを「地域デビュー」と表現することがあり、その「男性の地域デビュー」を推進し、生きがいをもって様々な活動を通して元気に楽しく過ごす男性のグループ作りを支援するもの。

	開催期日	会場	協議内容	参加者
1	令和5年5月17日(水)	坂本地域福祉センター	万灯会時の竹灯籠づくりのための竹切り	6
2	令和5年5月27日(土)	農園	じゃがいもほり（じゃがいもは市内5カ所の子ども食堂へ寄付）	7
3	令和5年6月10(土)	農園及び有佐駅前公民館	子ども食堂の子どもたちとじゃがいも堀り、その後公民館でカレーパーティー	22
4	令和5年6月24日(土)	支え合いセンター及びがらっぱ広場	今後の活動の予定、竹灯籠づくり	12
5	令和5年7月15日(土)	農園	畑の草取り及び、道具置き場の整備	10
6	令和5年7月22日(土)	支え合いセンター	夜市においてむかしのあそび広場を開催	75
7	令和5年7月23日(日)	イオン八代	むかしのあそび広場開催	31
8	令和5年7月29日(土)	支え合いセンター	夜市においてむかしのあそび広場を開催	49
9	令和5年8月5日(土)	農園	草取り	9
10	令和5年8月5日(土)	支え合いセンター	夜市においてむかしのあそび広場を開催	130
11	令和5年8月5日(土)・7日(月)	支え合いセンター	竹灯籠づくり	7

12	令和5年9月6日（水）	東陽橋永農園	栗ひろい	12
13	令和5年10月6日（金）	農園	里いもの収穫	6
14	令和5年10月7日（土）	ぬくもり食堂	八代宮の散策と八代宮について	5
15	令和5年11月2日（木）	農園	ピーナッツの収穫	12
16	令和5年11月22日（水）	農園	玉ねぎの苗植え	7
17	令和5年11月29日～12月18日	支え合いセンター	収穫した綿で不織布を作る	42
18	令和5年12月23日（土）	ぬくもり食堂	不織布でランプシェードづくり	50
19	令和6年1月13日（土）	ぬくもり食堂	餅つき	50
20	令和6年2月1日（木）	支え合いセンター	農園の年間予定について	12
21	令和6年2月11日（日）	農園	ぬくもり食堂の子どもたちとじゃがいもの植え付けとくさとり	24
22	令和6年2月27日（火）	農園	菊芋、じゃがいもの植え付け	8
23	令和6年3月30日（土）	八代宮他	花見及びお祭りでんでん館の見学をした	9

## 【評価・課題】

昨年に引き続き、じゃがいもの植え付けから収穫を子ども食堂と共同で行った。活動をしていく中で色々してみたいことがでてきて、活発に活動できた1年だった。子ども食堂よりいただいた綿の苗を畑で育てて収穫し、それで不織布を作り子どもたちにランプシェードづくりのワークショップを行った。その時に、綿を収穫して糸になるまでの工程を子どもたちに知ってもらうために道具を借りて流れの説明をして、たいへん好評だった。メンバーも現在15名に増え、ますます活動も活発になってくると思われる。少しずつ、自主活動への方向でサポートしていきたいと思う。

## (8) 【新規】こども食堂・地域食堂連絡会への参加等

市内に5ヶ所ある「こども食堂」の連絡会議に参加(毎月開催、※R6年より隔月開催、八代市企画政策課・こども未来課・社会福祉協議会参加) 社協にお寄せいただく食料品(米、野菜、お菓子、文房具)等を不定期に提供(令和5年10月以降実績、20回配付)  
社協としては生活困窮者の自立相談支援事業も実施しており、「もし気にかかる方がいらっしゃったら相談先として社協をご紹介下さい」と代表者の方に伝えている状況。積極的アプローチはなくとも、間接的に潜在的ニーズをキャッチする目的で関わっている。

#### 4. 福祉ボランティア及び福祉教育の推進

ボランティア活動の振興を図るために下記の事業を行った。

##### (1) 福祉ボランティア事業

事業名	会場	実施日	参加者数	内容
福祉体験教育	各小・中学校 いきいきサロン	通年	966	「ふだんの くらしの しあわせ」について地域の住民と一緒に考え、学びを深め、共に育む「福祉教育（共育）」を実施した。各小・中学校での福祉体験（車いす体験、アイマスク体験、点字ブロック体験（新）、高齢者疑似体験等）に加え、令和2年7月豪雨の経験から災害ボランティアや防災に関する講義、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する講義も取り入れた。小・中学校だけではなく、「当事者と支援者双方を体験しておきたい。」とのことで、いきいきサロンでの福祉体験教育も開始した。

##### 【評価・課題】

地域一丸で福祉教育を実施していくうえで、地域の中からの「福祉教育サポーター」の養成にも取り組む必要がある。社協のみで完結するのではなく、校区福祉会や単位民児協、地域包括支援センター等と多機関連携で実施して

##### (2) 災害ボランティアセンター関係事業

事業名	会場	実施日	参加者数	内容
災害ボランティア研修会 (八代市ボランティア連絡協議会共催)	麦島 コミュニティセンター	10月14日	40名	頻発する自然災害に備え災害や災害ボランティアの学びを深めるため研修会を八代市ボランティア連絡協議会との共催にて実施。坂本住民自治協議会蓑田陽一会長を招き、令和2年7月豪雨の被災経験からの生の声を講話。第2部では、社協より災害ボランティアセンターや災害への備え等の研修を担当。参加者はボランティア関係者ははじめ、民生委員児童委員や地域婦人会からも参加があった。
令和2年7月豪雨関連ニーズ対応	坂本町 (計4件)	6月3日 6月4日 7月28日 7月29日 10月22日 12月3日	合計 約60名	坂本でくっしこ隊による活動 ①【6月】「床下土砂出し、コンパネ、クッションフロアはり」 ②【7月】「地域の方が利用する山道に堆積した土砂の除去作業」 ③【10月】「肥薩線除草作業(坂本住民自治協議会主催)」 ③【12月】「セルフビルトのお手伝い」 被災から3年超、DIYで床はりや壁はりを試みるも、なかなか難しくそのままであったお宅の改修作業。コンパネについては熊本の被災者支援団体「特定非営利活動法人バルビー」により無償提供。建設会社社員のボランティアを中心に作業を行った。

【評価・課題】令和2年7月豪雨では、コロナ禍にあり県内限定での募集にも関わらず延べ9,000名のボランティアが駆けつけた。その中には災害ボランティアセンター閉所後も坂本町で支援することはないと気にかけてくれる方が多数あり令和5年4月に有志の方で「坂本でくっしこ隊」が結成。坂本町のニーズに対して快く協力頂いている状況。被災者支援のみならず社協事業にも共感頂いていて、緊急食料等支援事業への食料の寄付も頂いている。とてもありがたい存在で感謝している。

### (3) ボランティアセンター運営

#### ①センター登録ボランティア数

項目	登録数	登録期間	世代別
個人	42名（男：10、女：32） ※新規登録者：2名		10代：0名 20代：0名 30代：0名 40代：1名 50代：3名 60代：9名 70代：13名 80代：16名 90代：0名
団体	36団体 ※新規登録団体：1団体	1年間	

#### ②ボランティア派遣

項目	件数	協力団体	内容
点字	6件	点訳ボランティア虹の会	八代市・氷川町内の小中学校へゲストティーチャーとしてボランティア団体を調整。主に授業の総合学習内で実施。
講話	4件	個人・団体・社協	災害ボランティアや防災について小学校や中学校への派遣

#### ③福祉機器貸出

貸出用物品	件数
点字器	6件
高齢者疑似体験セット	3件
車いす	18件

#### ④ボランティア保険

種類	加入人数／件数	内容
ボランティア活動保険の加入	2,667名/129件	年間を通してボランティア活動における傷害・賠償補償
ボランティア行事用保険の加入	7,305名/62件	行事、いきいきサロン開催ごとに様々な事故に対する障害・賠償補償
賠償・傷害保険金の請求	5件	活動中の物損、活動中の転倒ケガ、会議に向かう途中での交通事故

【評価・課題】ボランティアセンター登録者に安心して活動ができるようボランティア活動保険の加入を推進した。

## ⑤ボランティア出前講座等

依頼者	会場	実施日	参加者数	内容
昭和小学校 (3・4年生)	昭和小学校体育館	R5年 6/26	約15名	<ボランティアについて①車イス体験②高齢者疑似体験③アイマスク体験> ボランティアについての座学と、3つの体験により、高齢者及び障がいをお持ちの方が、どのような感じで日々生活されているのかを体験し、今後自分に何ができるかを学ぶことを目的に実施。
八代第八中学校	体育館	R5年 7/7	約88名	ボランティアセンター、防災についての講話
郡築小学校 (4年生)	郡築小学校体育館	R5年 7/13、9/6	約64名	高齢者疑似体験、アイマスク、点字ブロック
千丁小学校 (4年生)	千丁小学校体育館	R5年 8/29、30	約75名	高齢者疑似体験、アイマスク、点字ブロック
代陽小学校 (4年生)	がらっぱ広場 代陽小学校体育館	R5年 9/7、14	約72名	車いす、高齢者疑似体験、アイマスク、点字ブロック
高田小学校 (4年生)	高田小学廊下、階段	R5年 9/8	約54名	車いす、アイマスク、点字ブロック
八代小学校 (4年生)	4年1組教室	R5年 9/11 11/7	約37名	点字体験、車いす、高齢者疑似体験、アイマスク、点字ブロック、防災教育
日奈久中学校 (3年生)	日奈中学校体育館	R5年 9/13	約11名	車いす、高齢者疑似体験、アイマスク、点字ブロック
高小原サロン	高小原公民館	R5年 9/20	約20名	車いす、高齢者疑似体験、
日奈久小学校 (4年生)	日奈久小学校教室	R5年 9/20	約6人	点字体験、車いす、高齢者疑似体験、アイマスク、点字ブロック

文政小学校 (4年生)	4年1組教室	R5年 9/26 R6年 1/25 2/16	約38名	点字体験、車いす、高齢者疑似体験、防災教育
太田郷小学校 (4年生)	太田郷小学校	R5年 10/17、 19	約137名	点字体験
鏡小学校 (5年生)	鏡小学校体育館	R5年 11/27、 28	約66名	車いす、高齢者疑似体験、アイマスク、点字ブロック
麦島小学校 (4年生)	麦島小学校体育館	R5年 12/21	約76名	車いす、高齢者疑似体験
二見小学校 (4.5.6年生)	二見小学校教室	R6年 1/22	約18人	点字体験
八代第5中学校	八代第中学校体育館	R6年 2/22 3/21	約54名	車いす、アイマスク、点字ブロック
麦島東西サロン	麦島東西公民館	R6年 2/22	約10人	車いす、アイマスク、点字ブロック
松高小学校	松高小学校体育館	R6年 2/28	約133名	車いす

【評価・課題】福祉体験の周知等を行った結果、多数の依頼をいただいた。新しいメニューも取り入れ、学校のみならずいきいきサロンでの福祉体験も実施した。また、八代五中では授業参観の機会に福祉体験教育を行い、保護者の方々とも学びを深めた。今後は新しいメニューの準備に加え、地域からの福祉教育センターの養成も行っていきたい。目指せ「小中学校コンプリート」の気持ちで今後も臨んでいきたい。

## 5. 相談支援事業の充実

生活基盤の安定化を支援し、住み慣れたまちで安心して生活がおくれるように下記の事業を実施した。

### (1) 生活福祉資金貸付事業

【支出額：1,456,011円】

#### ①令和5年度相談件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	29	27	29	46	40	26	20	23	27	27	53	28	375

#### ②令和5年度 資金種別ごと貸付決定当初における貸付件数及び貸付金額

資 金 種 別		件数(件)	貸付金額(円)※元金のみ	【評価・課題】
総合支援資金	生活支援費	0	0	貸付相談から相談者の抱える問題に対応するため、生活困窮者自立相談支援事業との連携により支援した。 また、貸付対象にならなかった相談者に対しても、関係機関を紹介するなど助言、支援に努めた。新型コロナ特例貸付については、償還が始まる以前は、償還が難しい方に対する相談支援を行い、償還免除や支払猶予等に係る手続きについての支援を行っている。 また、滞納世帯に対して督促状の送付や面談、電話による償還指導を行い、償還促進に努めた。償還が困難な借受世帯に対しては、借受世帯の状況に応じて各支援機関との連携のもと支援を行っている。今年度償還指導件数156件であり、滞納世帯が償還指導により償還ができるようになった件数は22件である。課題としては、貸付を希望されても、返済の見込みが立たない等で、貸付対象にならない方への対応に困ることである。
	住宅入居費	0	0	
	一時生活再建費	0	0	
福祉資金	福祉費(生業・購入等)	0	0	また、貸付対象にならなかった相談者に対しても、関係機関を紹介するなど助言、支援に努めた。新型コロナ特例貸付については、償還が始まる以前は、償還が難しい方に対する相談支援を行い、償還免除や支払猶予等に係る手続きについての支援を行っている。 また、滞納世帯に対して督促状の送付や面談、電話による償還指導を行い、償還促進に努めた。償還が困難な借受世帯に対しては、借受世帯の状況に応じて各支援機関との連携のもと支援を行っている。今年度償還指導件数156件であり、滞納世帯が償還指導により償還ができるようになった件数は22件である。課題としては、貸付を希望されても、返済の見込みが立たない等で、貸付対象にならない方への対応に困ることである。
	緊急小口資金	0	0	
教育支援資金	教育支援費・就学支度費	2	288,000	また、貸付対象にならなかった相談者に対しても、関係機関を紹介するなど助言、支援に努めた。新型コロナ特例貸付については、償還が始まる以前は、償還が難しい方に対する相談支援を行い、償還免除や支払猶予等に係る手続きについての支援を行っている。 また、滞納世帯に対して督促状の送付や面談、電話による償還指導を行い、償還促進に努めた。償還が困難な借受世帯に対しては、借受世帯の状況に応じて各支援機関との連携のもと支援を行っている。今年度償還指導件数156件であり、滞納世帯が償還指導により償還ができるようになった件数は22件である。課題としては、貸付を希望されても、返済の見込みが立たない等で、貸付対象にならない方への対応に困ることである。
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	0	0	
	要援護者世帯向け不動産担保型生活資金	0	0	
臨時特例つなぎ資金		0	0	また、滞納世帯に対して督促状の送付や面談、電話による償還指導を行い、償還促進に努めた。償還が困難な借受世帯に対しては、借受世帯の状況に応じて各支援機関との連携のもと支援を行っている。今年度償還指導件数156件であり、滞納世帯が償還指導により償還ができるようになった件数は22件である。課題としては、貸付を希望されても、返済の見込みが立たない等で、貸付対象にならない方への対応に困ることである。
合 計		2	288,000	
資 金 種 別		件数(件)	貸付金額(円)※元金のみ	
令和2年7月豪雨災害特例貸付	緊急小口資金	1	100,000	また、滞納世帯に対して督促状の送付や面談、電話による償還指導を行い、償還促進に努めた。償還が困難な借受世帯に対しては、借受世帯の状況に応じて各支援機関との連携のもと支援を行っている。今年度償還指導件数156件であり、滞納世帯が償還指導により償還ができるようになった件数は22件である。課題としては、貸付を希望されても、返済の見込みが立たない等で、貸付対象にならない方への対応に困ることである。
合 計		1	100,000	

#### ③令和5年度末 貸付件数及び貸付金額(全体)

資 金 種 別		件数(件)	貸付金額(円)※元金のみ
総合支援資金	生活支援費	15	7,190,500
	住宅入居費	4	484,801
	一時生活再建費	5	390,362
離職者支援資金	離職者支援費(生活費)	2	2,000,000
福祉資金	福祉費(生業・購入等)	11	13,101,765
	緊急小口資金	8	708,000
教育支援資金	教育支援費・就学支度費	51	26,112,350
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	0	0
	要援護者世帯向け不動産担保型生活資金	0	0
臨時特例つなぎ資金		2	190,000
合 計		98	50,177,778

### (2) 特例貸付償還管理相談支援事業 【支出額：1,065,531円】 ※相談支援業務のみ受託(償還支援業務は未受託)

特例貸付の借受人から相談があった場合に生活状況及び生活課題等に対するアセスメントを実施し、制度、支援策の利用支援を行う。関係機関との連携による必要な支援へのつなぎの上、必要に応じて食料や日用品の提供等の支援を行う。

#### 令和5年度相談支援件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	12	8	9	24	19	9	1	2	10	9	11	7	121

【評価・課題】 熊本県社協からの委託事業であり、当年度末の借受人1件あたり1,000円の事務費であるが、償還免除や完済により、借受人が減少するので、財源面において、事業の継続が不安定である。  
相談者に対しては、自立相談支援機関へのつなぎにより、支援ができている。

(2) 地域福祉権利擁護事業（法人成年後見事業含） 【支出額：9,000,168円】

①利用件数の推移（令和元年度～令和5年度）

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
契約件数	97	94	90	93	94
新規契約件数	15	19	19	13	22
解約件数	18	23	16	12	25
現契約件数	94	90	93	94	91
相談件数	2,557	2,243	2,642	4,554	4,913

※相談件数には利用者援助に関する相談も含む。

②令和5年度契約締結件数内訳

対象別	認知症高齢者	精神障がい者	知的障がい者	その他	合 計
件 数	27	32	31	1	91

区 分	課 税	非課税	生活保護受給者	合 計
件 数	8	63	20	91

③令和5年度生活支援員及び職員による訪問援助回数

	人 数	回 数	一人当たり 年平均回数
生活支援員 (職員含む)	18	2,029	112.7

【評価・課題】 今年度は、例年に比べ新規契約・解約件数が増えましたが、新規に契約しても本人の意向により支援が継続できずに解約となるケースが多くありました。今後、支援が困難なケースは、担当職員だけでなく複数職員による支援体制を確保し、利用者の意思を尊重しながら支援を継続できるように努めます。

また、現金や保管物件についても複数の職員によるチェックや立ち合いのもとで取り扱うよう徹底し、不正が発生しないように取り組んでまいります。今後も関係者の皆様の信頼を得られるように倫理観をもって取り組んでまいります。

④生活支援員を対象とした研修会への参加及び実施

1 ) 県社協主催による研修会への参加

令和5年度熊本県地域福祉権利擁護事業生活支援員等研修会

日時：令和6年1月24日（水）10時～16時

場所：熊本県総合福祉センター5階研修ホール

参加者：生活支援員2名（職員2名）

内容：（講義）地域福祉権利擁護事業における障がい者支援の技法等について

（講師）熊本市障がい者相談支援センター糸

センター長 平田晴彦 氏

2) 八代市社協主催による研修会の実施

令和5年度地域福祉権利擁護事業生活支援員研修会

日時：令和6年3月16日（土）10時～11時50分

場所：八代市社会福祉協議会3階会議室

参加者：生活支援員16名（職員7名含む）

内容：（講義）高齢者等の消費者トラブル・対応策について

（講師）八代市消費生活相談員 水谷 潤 氏

### (3) 法人成年後見事業

#### ①令和5年度 利用者数及び支援状況

	平成30年度～令和4年度				令和5年度				平成30年度～令和5年度				令和5年度支援回数			
	後見	保佐	補助	合計	後見	保佐	補助	合計	後見	保佐	補助	合計	後見	保佐	補助	合計
新規受任	2	2	0	4	1	2	0	3	3	4	0	7	382	106	0	488
終了	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	0	2				
利用者数	2	1	0	3	1	1	0	2	3	2	0	5				

#### ②令和5年度 成年後見制度利用促進研修会

日時：令和6年2月22日（木）13時～16時10分 オンライン開催 参加者：職員1名

内容：成年後見制度の概要、県内の成年後見制度の現状（行政説明）、成年後見制度の活用と同制度が地域で果たす役割について

#### ③第二期成年後見制度利用促進基本計画に関する連続学習会（第6回）

日時：令和5年9月20日（水）17時30分～20時 オンライン開催 参加者：職員2名

内容：地域福祉における総合的権利擁護支援策の展望と課題

#### ④第二期成年後見制度利用促進基本計画に関する連続学習会（第7回）

日時：令和6年3月6日（水）17時30分～20時 オンライン開催 参加者：職員2名

内容：適切な選任と交代～候補者の受任調整の工夫～

**【評価・課題】** 今年度は、後見1名・保佐2名の方を受任しました。現在、被後見人等5名の内、4名の方が施設へ入所されており、変わりなく落ち着いて生活されております。1名の方は亡くなられたので死後事務を行っております。今後も被後見人等に對して適正な支援を図りながら、熊本家庭裁判所八代支部より新規依頼があった場合の受任体制を整備し、地域福祉権利擁護事業と一体的な支援を図っていきます。

### (4) 市民後見人養成研修事業 【支出額：600,000円】

成年後見制度利用促進基本計画により、権利擁護を支える専門職後見人や法人後見、市民後見人等の確保・育成が求められています。そこで、地域住民の参加支援を得ながら地域共生社会の実現のために市民後見人養成研修（フォローアップ研修）を実施した。

期日・内容：令和5年9月～11月（6回講座・業務同行） 市民後見人の必要性など

場所：八代市社会福祉協議会 3階会議室

受講者：13名（修了証書を交付）

**【評価・課題】** 今年度は、令和4年度に基礎研修を受講された14名の方を対象にフォローアップ研修を実施し、13名の方が修了されました。現在、2名の方が法人後見支援員として活動していただいております。今後も市民後見人の養成に努めます。

### (3) 生活困窮者自立相談支援事業（八代市委託事業）

【支出額：17,503,400円】

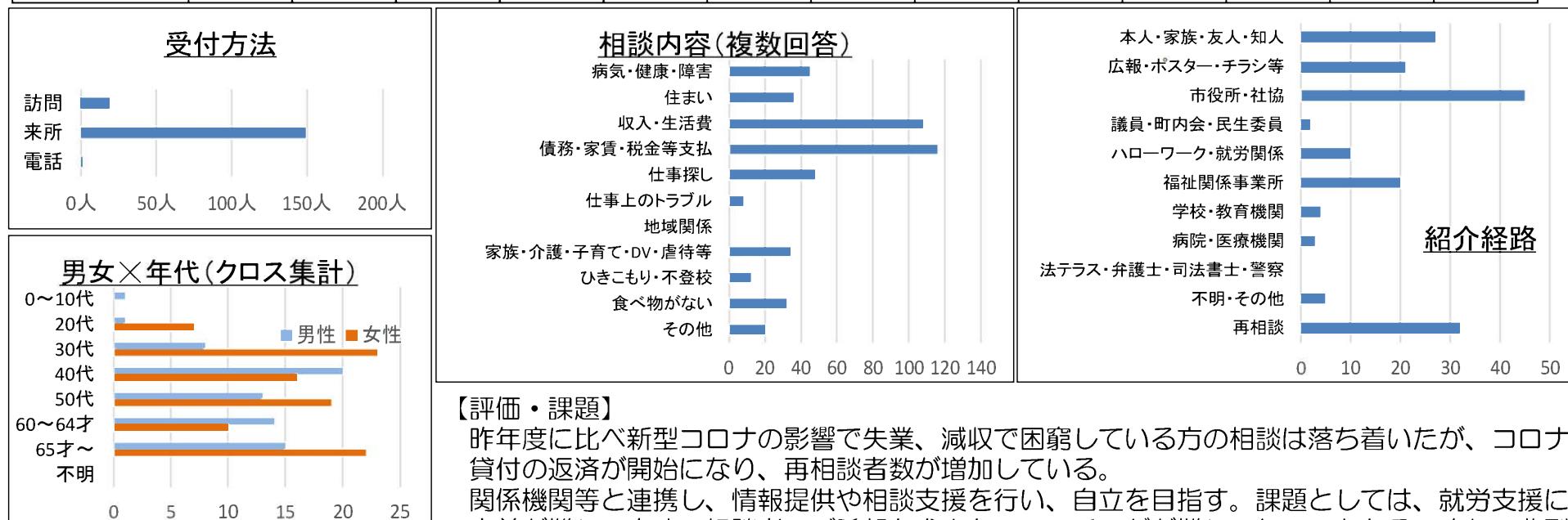
さまざまな背景により生活困窮に陥っておられる相談者に対して、各関係機関との連携のもと、支援を行った。  
主任相談支援員1名（兼務）、相談支援員3名、就労支援員1名配置している。

#### ①事業周知・啓発活動

1. 社協だより（全世帯配付：年3回）、社協HP・FBへの掲載
2. パンフレット等の配付（行政・関係機関）
3. 出張相談カレンダーを作成し民協会長会にて配付
4. 会議・研修会での説明（各関係機関主催研修会等）

#### ②支援実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	15	11	9	24	14	16	22	8	13	15	14	8	169
プラン作成件数	6	5	9	0	7	4	5	5	5	4	0	8	58
就労実現者数	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	6	11
就労による增收者数	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6



#### ※緊急支援の実施：緊急食料等支援事業

八代市に居住する生活困窮者に対し、緊急的かつ一時的に生計維持が困難になった場合に食料等の現物を提供することにより、自立支援するとともに助け合いのできるまちづくりを推進し、地域福祉の増進を図ることを目的とし実施した。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
提供件数（子供食堂への提供含む）	13	16	11	16	16	24	18	26	14	19	17	18	208

#### 【評価・課題】

食料支援を受ける方が増加傾向にある。原則、3回までという規定があるが、それ以上必要な方が多い。寄付者件数は、93件だった。年々、協力者が増えている。緊急対応として効果があるが、何回も支援を求める方への対応については検討する必要がある。

#### ※緊急支援の実施：小口資金貸付事業

生活困窮者世帯が不測の事態により、緊急的に援護を必要とする理由が生じたとき、資金の貸付を行い、生活の安定を図ることを目的とし実施した。貸付財源として、アルミ缶・新聞紙回収益金を利用している。他、寄付金を頂いている。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
貸付件数	2	2	3	1	4	3	4	3	1	1	4	4	32

貸付金額：353,200円

貸付累計金額：1,835,978円(165件) 償還累計金額：832,038円 貸付累計残額：859,940円 償還不能処分累計額144,000円

#### 【評価・課題】

ライフラインが維持できない等、緊急に資金が必要な場合に、小口貸付を行うことにより、有効な支援となった。利用者が増加している。財源確保の一手段として、小規模法人（保育園）との連携により資源の寄付を頂くなど、継続してご協力頂いている。また、一般の寄付者の協力が得られるようになっている。課題は、返済が困難な方への対応と安定した財源の確保である。

#### ※ひなたでカフェ

ひきこもりの悩みを周囲には相談できずに苦しめている方が気兼ねなく語り合える場の提供。

月1回第4木曜日 午後1時30分から約2時間 八代市地域支え合いセンターにて

R5年度開催回数6回 延参加人数17名

#### 【評価・課題】

ひきこもりに対する支援の一つである。広報周知に力を入れ、悩みをもたれている方へ支援が届くようにしたい。

※無料職業紹介事業　　自立相談支援申込者で、就労を希望される方を対象に職業紹介・斡旋を行う。

求職登録者数：15件　就職決定者数：1件　求人登録数：10件(42人)　離職者（6ヶ月以内）6人

【評価・課題】

就職後の定着支援を行う等、自立相談支援事業と包括的な支援を行うことにより、効果的な支援を行うことができている。

課題としては、生活が逼迫し、すぐにでも就労収入を得なければ生活の維持が難しい方や障害疑いのある方、70才を超える求職者に対する求人数が少ないので、開拓する必要がある。

※令和5年度熊本県生活困窮者に対する緊急・一時支援事業（熊本県補助事業）

新型コロナウィルスの感染症対策のため、緊急に支援が必要な生活困窮者に、生活必需品の給付、一時的な住まいや食事の提供等の緊急・一時的な支援を行った。

事業総額：591,067円（内訳：補助金額 500,000円 自主財源91,067円）

【評価・課題】

新型コロナウィルス感染症対策のための支援事業であり、令和2年度から実施している。ライフラインの確保等のための緊急支援が効果的に行われる事業である。時限的な補助事業であるが、本市独自事業としての継続が望まれる。財源の確保が課題である。

※ 赤い羽根 ポスト・コロナ社会に向けた福祉活動応援キャンペーン「生活困窮者への緊急支援活動助成事業」

八代市自立相談支援センターへ相談される生活困窮者で、家計改善支援事業や就労支援を希望される方を主な支援対象者とし、命を守る緊急支援として食料品を1週間分単位でパッケージして配布 また、保冷精米機を購入した。

事業総額：324,800円（内訳：補助金額300,000円　自主財源24,800円）　支援時期：令和5年12月～令和6年3月

食料品の量：目安約1週間分 提供実績：45件

【評価・課題】生活困窮者に対する支援において、連絡がとれなくなったり、支援中断となるケースがある。家計改善支援事業や就労支援を行うには継続支援が必要である。そのきっかけとして食料品を配付することによって、支援につなげる効果があった。

※ 携帯電話貸出支援事業→携帯電話利用支援事業（変更）：令和6年3月14日から施行。

生活困窮者で携帯電話等の通信手段が無く、就職活動に不利になる方で希望する方に対して、携帯電話の利用を支援し、早期の自立に向けた就労支援を目的に実施。

支援額　： 初期費用1円（SIM発行手数料）、月額費用（3ヶ月分）9,762円　消費税 977円　合計10,740円／1名分

実績　： 0件

【評価・課題】今年度は実績は0人だったが、携帯電話料の滞納等で新規契約が困難な方に対して、通信手段の確保は必要な支援だと思われる。貸出支援事業から業者と利用者の2社契約への変更により、利用しやすくなった。

## 6. 障がい者福祉の推進

障がい者の自立した生活と社会参加を推進するために市民に広く団体・施設活動を周知することを目的に事業を実施予定であったが、新型コロナウィルス感染拡大防止の為、開催を中心とした。

事業名	実施日	会場	参加者数	内容
ふれあいフェスタ	11月26日(土)	桜十字ホール	約100名	式典、福祉功労者表彰、一人金婚者表彰、福祉講演会 ステージ発表、展示、食バザー

【評価・課題】八代市における福祉の現状等を広く市民に知って頂くために障がい者施設、ボランティア団体等による音楽発表会や作品展示など行っていたが、近年はコロナのため中止が続き、今回5年ぶりの開催となった。これまで通り、大ホールでは福祉功労表彰、一人金婚式、ふれあい音楽発表会、福祉講演会。多目的ホールでは参加施設団体による活動紹介パネル、作品展示。多目的広場では食バザーを行った。コロナがら類移行後の開催であったが、それでも施設等においては参加を躊躇されたことや、周知不足等も重なり参加者数が少なかった。来年度については運営方法も改善していきたい。

## 7. 児童・母子・父子福祉の推進

次世代を担う子供たちの健全育成の一助として、児童遊具の補修費助成(令和2年度からは遊具の撤去費も含む)を実施している。

事業名	件数	助成先(町内)	助成金額	内容
児童遊具補修助成	0件	—	—	

【評価・課題】例年1件あるかないかの申請件数である。令和5年度は相談件数も0であった。

## 8. 広報活動の充実

### (1) 社協だよりの発行

社協の組織や活動内容について広く市民に周知を図るために、広報誌「やつしろし社協だより」を年3回発行し全世帯に配布した。

発行番号	発行日	発行部数	摘要
第64号	6月1日	50,000部	全世帯に配布(8ページ) 音声訳4名・点字訳7名
第65号	10月1日	50,000部	全世帯に配布(8ページ) 音声訳4名・点字訳7名
第66号	2月1日	50,000部	全世帯に配布(8ページ) 音声訳4名・点字訳7名

【評価・課題】八代市の全世帯に向けて社協だよりを発行している。令和2年度からは視覚障がいの方のために、萌の会及び虹の会のご協力により音声訳と点訳による社協だよりを配布した。

### (2) 社協ホームページ及びSNS等を活用した情報発信

社協組織の概要や事業の予告・報告、福祉、災害義援金の取扱い等に関する情報を随時更新し情報発信に努めた。

(ホームページ) <http://www.yatsushiro-shakyo.jp/>

(Facebook) <https://www.facebook.com/yatsushiroshakyo/>

(Twitter) <https://twitter.com/yatsu46shakyo>

【評価・課題】令和2年7月豪雨災害にかかる災害ボランティアセンターの開設以来、SNS (FacebookとX・旧Twitter) を積極的に活用している。被災からまもなく4年となるが、引き続き日々の業務やイベント、緊急食料品の寄付のお願いやお礼、ボランティア活動の周知。地域での取り組み等々、一人でも多くの方に社協を感じていただきたい意識的に記事をアップしている。社協だよりの発行は年3回。費用もかからず手軽に更新でき、広く拡散することも可能であるツールを有効活用していきたい。

## 9. 在宅福祉事業の充実強化（介護保険事業等）

高齢者、障がい者の在宅での自立した生活を支援するために下記の事業を行った。

### （1）介護保険事業の年間利用者数及び利用実績

#### ①居宅介護支援事業（介護予防プラン受託含む）

【収入額：26,851,870円／支出額：25,133,672円】 収支差額1,718,198円

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和4年度合計	令和4年度月平均
ハ代支所	利用者数	99	96	93	92	94	93	101	101	96	104	95	106	1,170	98	1,178	98
泉支所	利用者数	62	66	69	73	74	74	75	74	72	70	73	75	857	71	749	62
合計	利用者数	161	162	162	165	168	167	176	175	168	174	168	181	2,027	169	1,927	161

#### 【評価・課題】

今年度は利用者数の増加に伴い収入額も増加した。収支差額についても昨年度より増加し、今年度も黒字となった。

利用者増加の要因となったのは泉支所の利用者増加によるもの。これに伴い収入も増え収支差額も増額となった。

黒字化を維持している要因として、一つは職員間の業務スケジュールの効率化がある。書類印刷時のプリンターや訪問時の車両など、職員が機材を使用する時間帯をずらすことで少ない台数で運営ができ経費削減につながっている。

二つ目は定期的に運営会議を開催し、利用者の受け入れ状況を職員全員で把握していること。お互いに利用者の受け入れ人数を確認することで、新規利用者を受け入れる際に担当者の選定がスムーズに行え、多くの受け入れが可能になっている。

#### ②通所介護事業（介護予防含む）

【収入額：52,171,510円／支出額：62,144,271円】 ◇③お達者クラブの収支含む。収支差額△9,972,761円

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和4年度合計	令和4年度月平均
泉支所	利用者数	25	22	25	28	26	27	26	27	28	26	26	24	310	26	363	30
(さわやか荘)	利用回数	281	296	310	334	330	336	325	339	302	293	274	287	3,707	309	4,502	375
泉支所	利用者数	14	14	14	12	13	12	12	13	13	9	10	12	148	12	159	13
(ふくじゅ草)	利用回数	64	87	83	78	73	82	96	95	65	65	69	79	936	78	623	52
合計	利用者数	39	36	39	40	39	39	38	40	41	35	36	36	458	38	522	44
	利用回数	345	383	393	412	403	418	421	434	367	358	343	366	4,643	387	5,125	427

#### 【評価・課題】

今年度の収支差額は昨年度と比較して赤字がさらに大きくなっている。

赤字が大きくなった原因として、1つ目はふくじゅ草の職員体制を充実させたこと。昨年度より職員を常勤換算1.5人増員し、職員の内訳も正職員を新規で1名増やしたことによるもの。

ただし先を見越したうえでの体制でもある。昨年までは職員の応募がなく最小限の体制で実施した分、利用者の受け入れも1名につき週2回までとした。その分利用者が低迷し収入が上がらなかった。しかし、今年度は職員体制を整え利用者の受け入れ回数の制限を撤廃したことにより、利用回数が大幅に増加した。さらに次年度は右肩上がりで利用回数が増えており、収入も増加傾向にある。

社協泉支所は山間部へのサービスを充実させる使命もある。今後はサービスを向上させながら赤字幅を減らすことに努める。

③総合事業（お達者クラブ）【収入額／支出額】◇②通所介護事業に含む。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和4年度合計	令和4年度月平均
泉支所 （さわやか荘）	利用者数	12	13	14	15	15	15	17	16	16	15	16	179	15	145	12	
	利用回数	89	104	110	105	103	100	108	123	109	94	106	117	1,268	106	880	73

（2）受託事業の年間利用者数及び利用実績

①あんしん相談センター事業 【収入額：960,000円／支出額：960,000円】

※地域包括支援センターの協力機関。介護予防サービスの紹介や申請代行、各種福祉サービスの紹介、介護予防教室開催の協力をを行っている。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和4年度合計	令和4年度月平均
泉支所 （相談業務）	実利用者数	6	8	6	8	4	8	5	5	5	6	4	9	74	6	65	5
	延利用件数	8	8	7	9	4	8	5	5	6	7	4	9	80	7	97	8

②介護予防送迎事業 【収入額：2,330,000円／支出額：2,330,000円】

※いきいきサロン、やつしろ元気体操教室などの介護予防事業へ参加する人の利便性を図るため、泉憩の家、五家荘憩いの家、柿迫生きがいセンターへの送迎を行った。

今年度は新型コロナの影響もなくなってきたことで、少しずつ送迎の実施日及び利用者数が増えてきた。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和4年度合計	令和4年度月平均
泉支所	利用日数	13	13	14	14	11	12	13	12	13	10	12	13	150	13	150	13
	延利用者数	97	105	103	101	64	83	89	85	91	60	84	94	1,056	88	1,056	88

## 10. 令和2年7月豪雨に対する取り組み

### 1. 八代市地域支え合いセンター設置運営事業 — 【支出額：23,934,491円】

令和2年7月豪雨における被災者への訪問、電話等により孤立防止等のための見守り支援を行うとともに生活再建にむけて課題等を的確に把握し各種相談等、被災者に対する支援を一体的に提供するため設置された。

#### 2. 事業内容

##### (1) 会議等の開催

- ①連絡会議（個別事例等について検討している）

毎月1回（年間12回開催）

会議名	開催期日	参加関係機関	内容
連絡会	4/7、5/10、 6/8、7/7、 8/8、9/8、 10/10、 11/8、 12/8、1/9、 2/8、3/8 (12回)	県地域支え合い支援室 県住まい対策室 市健康福祉政策課 市住宅課 市保健センター 県地域支え合いセンター支援事務所 住宅支援機構 八代市地域支え合いセンター (八代市社協)	取組状況報告、困難ケース検討、今後の支援スケジュール

- ②ミーティング（県支援事務所と生活再建へ向けての検討をする）週1回

##### (2) 訪問・相談等

○支援回数（令和6年3月31日集計）延べ回数

	支援実施回数(延べ数)						
	合計	訪問	電話	来所	他機関へのつなぎ	文章等	その他
仮設	853	553	85	51	0	0	164
みなし仮設	1456	1128	122	31	0	4	171
在宅	757	535	127	16	0	0	79
災害公営住宅	0	0	0	0	0	0	0
一般公営住宅	99	72	23	0	0	2	2
その他	512	365	88	2	0	6	51
合計	3677	2653	445	100	0	12	467

・仮設住宅等入居者や在宅被災者に相談連絡先を周知し、相談窓口として被災者から相談を受け、情報の提供や関係機関へつないだ。

・生活支援相談員が2人1組となり、定期訪問等を行った。

見守活動をしていく中で課題が見つかった世帯については連絡会等でケース検討を行い市や関係機関と連携して支援を行った。

### (3) コミュニティーづくりのコーディネート

#### ① 【みんなdeカフェ】

市内各地域で生活している方々を一同に会して久しぶりにゆっくりお話をする場の提供を行った

●みんなde桜十字ホールカフェwithマルシェ（桜十字ホール150名参加）八代広域消防音楽隊による演奏やくまモンを呼んでステージが盛り上がった。

また、マルシェを同時開催してキッチンカーなど広場により、各々で楽しんでいた。

#### ② 【スマイル広場】

大門の空き家をボランティア団体と秀岳館高校の生徒でコミュニティースペースに改修した場所をお借りしてサロンを月1回開催。軽体操やゲームなど。計5回開催、合計55名参加

#### ③ 【出張カフェ「よんなっせ」】

道の駅（80名参加）市ノ俣（12名参加）合志野（13名参加）藤本・大門（10名参加）中津道（10名参加）西部集会所他（150名）

### (4) ボランティア団体との連絡調整

仮設住宅も入居者がわずかとなり、ボランティアにこられることはなかったが、被災地から被災地（輪島市→島根県大田市→八代市）と着物を活用して手提げ袋を作り送る活動をしている。その活動は、ボランティア団体の協力のもと、八代市内のボランティアの協力も得ながらしている。発祥が輪島だったこともあり、今回は八代市から300個を送る予定で日々作成している。

### (5) 関係機関との連携

- 連携会議を設置し、専門機関や市役所、県庁の関係課と情報交換や事例の検討を行った。

#### 【八代市地域支え合いセンター連絡会議】

●構成メンバー：地域支え合いセンター、市健康福祉政策課、市住宅課、県支え合いセンター支援事務所、県すまい対策室、県地域支え合い支援室他

●内容：月次報告、状況報告、個別ケース検討等

●回数：月1回 計12回開催

## 3. 職員の資質向上のための各種会議及び研修会等

- 毎月山下アドバイザーが来所時に、その時に必要な研修をしている。（センター相談員6名）

●「ブロック別連絡会議」令和5年10月6日 19名参加 芦北町地域支え合いセンターと合同で、宇土市社協の今村さんをお迎えして熊本地震の時の事例などを聞きした。

## 【評価・課題】

2名1組のチームで八代市内外の広域に生活する被災者の支援（訪問活動や相談業務）を行ってきた。

積極的に、地域で行う出張カフェ「よんなっせ」を周知してコミュニティーの構築に心がけてきた。また、日常の取り組みである「いきいきサロン活動」へ繋ぐための試みでお試しサロンを開催した。

各関係機関と協働して、関係機関と連携を図りスムーズに行うことができ感謝している。まだ、かさ上げや災害公営住宅の建設も控えており今後も関係機関との連携が大切と思われる。

## 11. 福祉施設利用状況

指定管理者として施設（本所除く）の管理・運営業務を行った。

### (1) 泉憩いの家

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泉支所 (泉憩いの 家)	利用件数	3	5	4	3	6	7	5	3	3	3	5	5	52
	利用者数	258	438	120	95	82	151	192	34	36	54	82	264	1,806

### (2) さわやか荘一般入浴他

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泉支所 (さわやか 荘)	利用者数	66	96	90	81	90	85	86	86	89	91	88	84	1,032

### (3) 柿迫生きがいセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泉支所 (施設利用)	利用者数	66	83	91	68	63	79	71	60	91	55	64	77	868
	利用者数	228	247	242	254	258	209	247	262	259	284	338	366	3,194

### (4) 高齢者生活支援ハウス事業

※居宅において生活することに不安のある方に対し、一定期間住居を提供し、各種相談及び助言を行なうとともに緊急時の対策を行っている。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泉支所	利用者数	7	7	8	8	8	8	8	8	8	7	7	6	90
	利用延数	194	217	226	246	248	240	248	240	227	200	175	186	2,647

## 12. その他の事業

### (1) その他の事業

事業名	日時	会場	対象者数	内容
竹灯籠ワークショップ	7月27日(木)	坂本地域福祉センター	-	<p>市民の皆さんより頂いた香典返戻寄附金(香典返し)を財源とし、様々な地域福祉事業を実施していることから、社協では長年、8/15に万灯会(旧精霊流し)を実施してきた。</p> <p>少しでも多くの方に知って頂きたく万灯会当日、会場(桜十字ホールやつしろ)周辺への竹灯籠の飾りつけを企画。また、令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けた坂本町の復旧復興祈念とし、災害ボランティアセンターの拠点である坂本地域福祉センター横の竹を切り出し、日奈久住民自治協議会、坂本校区福祉会の協力により、一般ボランティアと一緒に活動した。</p>
やつしろし万灯会	8月15日(火)	桜十字ホールやつしろ	2,065人 (初盆供養者)	<p>初盆を迎える御靈の冥福を祈ると共に、家族の方々の一日も早い悲しみからの立ち直りと繁栄を願い開催。八代市仏教会との共催。</p> <p>その他、万灯組み立てにはボースカウトさま、翌日の片付けには、若者サポートステーションやつしろのご協力を頂いた。</p>
ひとり金婚者祝い事業	11月25日(土)	桜十字ホールやつしろ	28人	結婚50周年を迎え、配偶者に先立たれながらも、子育てやご家族のためにご尽力された方へふれあいフェスタ式典時に記念品を贈呈した

【評価・課題】以前実施していた精霊流しは、河川の環境問題等を考慮し2年度より万灯・精霊舟を川に流さない形の「万灯会」に移行。しかしながらコロナによる無観客開催や昨年はディスタンスを確保した形でのウィズコロナ版として実施。5年度は初めての通常開催となった。多目的ホールを会場としたが、多くの方のお越しいただいたため、会場内に入りきれず施設の外までお並び頂くこととなった。試行錯誤しながら次年度以降良いものにしていきたい。

## (2) 日本赤十字社事業

### ①活動資金募集実績

標準目標額	実績額
14,992,000円	13,143,942円

【評価・課題】 婦人会や市政協力員の会議等に伺って改めて赤事業の説明をしたもの、実績額は目標を下回ってしまった。5月の活動強化月間には福祉会の総会や、個別依頼を受けて町内の会議等へも説明のために訪問しており、引き続き今後も活動資金募集への理解を深めてもらえるよう努める。

### ②災害救援物資配布事業

台風災害及び一般住宅火災被災世帯への救援物資の配布

区分	件数
全焼	1件
半焼	0件
全壊	0件
半壊	0件
床上浸水	0件
※部分焼	0件

※部分焼については、原則配付対象外であるが、物資の配布が必要と判断される場合は配付を行う。

【評価・課題】 地域奉仕団（婦人会）及び町内会長と連携を図り迅速に救援物資の配布を行った。

### ③救援金・義援金募集実績（令和6年3月末実績）

ウクライナ人道危機救援金(累計)	R4.3.2～	882,718円
トルコ・シリア地震救援金(累計)	R5.2.9～	107,822円
令和5年5月能登半島地震災害義援金(累計)	R5.5.10～	17,775円
イスラエル・ガザ人道危機救援金(累計)	R5.10.17～	20,000円
令和6年能登半島地震災害義援金(累計)	R6.1.4～	4,618,624円

### ④赤十字研修会・講習会

被災時における被災者支援活動を円滑に進めるため、日赤県支部の協力を得て、八代市地域赤十字奉仕団(婦人会)では救急法などの講習を受けた。

6カ所（代陽校区、麦島校区、松高校区、郡築校区、日奈久校区 千丁校区）

## (3) 共同募金事業

### ①募金実績額

目標額	実績額
23,341,000円	16,612,207円

### ②内訳

区分	金額(円)
街頭募金	112,952
戸別募金	13,519,850
法人募金	1,160,400
個人募金	120,095
学校募金	88,538
職域募金	1,368,748
その他の募金	241,624
計	16,612,207

### ③令和5年度配分金事業内訳

事業名
長寿者慶祝事業
児童遊具補修事業
福祉育成・援助活動事業
ふれあいフェスタ
法人間連携協働推進事業
地域福祉活動計画策定事業
社協だより発行事業
ボランティアセンター運営事業
お茶飲みサロン推進事業

### 【評価・課題】

「くまもんバッジ・ボールペン」などに加え「エコバッグ」など新たな促進グッズによりPRしたことで職域募金に関しては増加となった。しかし、主に戸別募金の減少が影響し目標額を下回る結果となった。

引き続き、使い道も含めて市民の皆様にご理解いただけるよう、周知・説明していきたい。また企業・団体の皆様に、赤い羽根寄付付き自動販売機の設置による、地域社会への貢献について理解を求めていきたい。

#### (4) 観察、研修の受入・講師派遣状況

■①観察研修受入等 ■ 県内外の社協等の研修を受け入れ、互いの活動状況について意見交換を行った。

	観察者等	期 日	人数	内 容
1	山都町民児協	6/6(火)	約40名	【坂本町民児協への観察研修】 令和2年7月豪雨にかかる坂本町の被災状況。被災後における活動についての意見交換。社協からは災害ボランティアセンター、地域支え合いセンターの活動状況等について発表した。
2	菊池市第一地区民児協	6/21(火)	約39名	【坂本町民児協への観察研修】 令和2年7月豪雨にかかる坂本町の被災状況。被災後における活動についての意見交換。社協からは災害ボランティアセンター、地域支え合いセンターの活動状況等について発表した。
3	氷川町民児協	10/12(木)	約40名	【坂本校区民児協への観察研修】 令和2年7月豪雨にかかる坂本町の被災状況。被災後における活動についての意見交換。社協からは災害ボランティアセンター、地域支え合いセンターの活動状況等について発表した。

■②講師派遣等 ■

	派遣先等（会場）	期 日	人数	内 容
1	熊本県社会福祉士会 (桜十字ホールやつしろ)	6/30(金)	約100名	【八代ブロック研修会】 三者合同の災害ボランティアセンター設置訓練の代替事業として、三者協定内容の再確認と令和2年7月豪雨にかかる災害ボランティアセンターの運営についての振り返りを行った。
2	県南労福協八代地区運営委員会	7/6(木)	約25名	【県南労福協八代地区運営委員会 勉強会】 令和5年度の県南労福協八代地区運営委員会の計画でフードドライブに取り組みたいので、フードドライブの実施方法を勉強会されました。研修後に5年度は2回実施された。
3	八代市民生委員児童委員 (桜十字ホールやつしろ)	9/27(水)	約250名	【令和5年度全体研修会】 民生委員児童委員に係る各種補償制度について申請状況等も交えて周知した。
4	氷川町民児協 (氷川町公民館)	10/12(木)	約40名	【民生委員と災害支援の関わり方について】 令和2年7月豪雨にかかる坂本町の被災状況。被災後における活動についての意見交換。社協からは災害ボランティアセンター、地域支え合いセンターの活動状況、民生委員児童委員活動保険等について発表した。坂本町民児協の役員の皆さんと一緒に訪問した。

6	八代南ロータリークラブ (八代グランドホテル)	10/17(火)	約35名	【八代南ロータリークラブ例会卓話「地域経済発展～八代市社会福祉協議会のさまざまな事業」】 八代南ロータリークラブ会員を対象に、社会福祉協議会とはどのような団体なのか、寄せられる相談内容、お困りごとに対応する主な事業内容等について説明を行った。
7	熊本県社会福祉協議会 (熊本くまもと県民交流館 パレア)	12/5(火)	約100名	【令和5年度災害ボランティアセンター、地域支え合いセンター研修 「被災者の主体的な自立と生活再建について考える（災害ケースマネジメント研修会）」】 講師は昨年3月に策定された「災害ケースマネジメント実施の手引き」作成検討会メンバーである菅野拓 大阪公立大学大学院准教授。八代市社協からは、被災2ヶ月半後に災害VCと同時平行で開設した「地域支え合いセンター」のこと。「土砂出し家財出しはあくまでも生活再建のスタートであり、その後の生活課題をいかに支援していくことが大切か」等について話した。
8	高校生ボランティア連絡協議会 (八代市役所会議室)	1/28(日)	約20名	【「熊本豪雨被災地の現状と課題～熊本県八代市坂本町のこれから～」】 令和2年7月豪雨で被災した地元、坂本町の課題と現状についての学習会を高校生が自ら企画。道の駅さかもと 道野駅長から、道の駅の被災状況、復旧支援活動者としての立場からのお話。また、被災者として電池量を意識しながらスマホで自宅前の油谷川の凄まじい水量の動画記録や各所へ連絡された当時の切迫した状況。坂本町を気にかけてくれる関係者人口の大切さなどについて報告。社協からは「令和2年7月豪雨による坂本町の被災等について」当時のニュース映像等と災害ボランティアセンターについて。その他情報収集ツールとしての「八代市WEB版防災マップ」「早よ見なせ球磨川」「キクル」「八代市防災アプリ」の使い方について伝えた。
9	熊本市社会福祉協議会 (熊本市西区公民館)	2/12(月・祝)	約150名	【令和5年度災害ボランティアリーダー研修会in西区】(※昨年の東区に続き2回目) 熊本市社協が市民向けに実施している研修会で、福祉会や自治会長、民生委員など多くの地域の方が参加。坂本町の被災状況や災害ボランティアセンターの運営状況などを中心に、ゼンリン地図を大判プリンターで印刷、7地区の自治会長会議に赴き、気になる被災世帯などをマーキングしてもらった様子や、坂本町に支援に入るボランティア団体との連絡会議（計30回）に住民自治協議会も加わって頂いたことなども紹介した。
10	熊本県地域支え合いセンター支援事務所 (八代市地域支え合いセンター)	3/14(木)	約20名	【地域支え合いセンター合同研修会】 芦北町地域支え合いセンターとの合同研修会。アドバイザーである山下氏より、能登半島地震による輪島市の被災の現状と輪島市社協による支援について。八代市社協からは災害ケースマネジメントについて、社協の限界が支援の限界とならないためには、日頃から様々な機関・団体と顔の見える関係性が必要であることなどについて話した。

## 【評価・課題】

令和2年7月豪雨災害による災害ボランティアセンター・地域支え合いセンターに係る研修(講師)依頼が多数あり。改めて振り返るきっかけとなり今後の役に立った。

### 13. 校区福祉推進協議会事業報告

地域概要：令和5年3月31日現在

行政区域	332 区
人口	122,015 人
世帯数	57,406 世帯
高齢化率	34.9 %
65歳以上人口	42,619 人
平均年齢	50.2 歳
市社協補助金	9,541,460 円
ネットワーク数（対象者数）	3,621 件
ふれあい委員数	1,652 人
サロング設置数	216 ケ所

※令和5年度事業内容

＜共通事業＞ 1. ふれあい委員活動の充実 2. 広報紙の発行 3. いきいきサロンの支援 4. 福祉座談会の開催

＜重点推進事業＞ 1. 認知症を理解する研修会の開催 2. いきいきサロン新規参加者の拡大

代賜校区福祉推進協議会		八代校区福祉推進協議会		太田郷校区福祉推進協議会		植柳校区福祉推進協議会		麦島校区福祉推進協議会	
設立：平成7年8月21日		設立：平成5年12月14日		設立：平成6年12月21日		設立：平成7年3月6日		設立：平成7年8月18日	
地域概要	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	25 地区 7,580 人 3,895 世帯 32.4 % 2,459 人 49.2 歳 672,260 円 337 人 114 人 8 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	13 地区 4,828 人 2,516 世帯 35.5 % 1,712 人 51.2 歳 428,740 円 119 人 48 人 5 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	31 地区 14,886 人 7,199 世帯 31.1 % 4,623 人 48.2 歳 1,023,020 円 471 人 165 人 19 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	6 地区 4,537 人 2,120 世帯 36.3 % 1,645 人 50.5 歳 382,120 円 85 人 76 人 6 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数
共通事業	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会・連絡会議 グルーフワーク（台帳整理、情報交換） ・福祉座談会（ふれあい委員研修会後に実施） 2 広報紙の発行（年1回） 3 いきいきサロン事業の拡充 ・サロンサポーター研修会 ・サロン設置と参加者の拡大 ・助成金交付	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員情報交換会及び研修会 見守り対象者の見直し ・福祉座談会 ・福祉座談会（ふれあい委員研修会後に実施） 2 広報誌の発行（年1回）※自治会便りに掲載 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・いきいきサロン担当者研修会（1回）	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会議 福祉座談会 活動説明、台帳整備 2 広報紙の発行（年1回）総会議3回（コロナのため中止） 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・サロンサポーター研修会	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会 関係資料と粗品の配布 ・福祉座談会（町内役員を交え意見交換会） 高齢者への声掛け・見守り活動 2 広報紙の発行（年1回） 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修会（資料配布のみ） ・助成金交付 ・いきいきサロン大会（オーフニング出場）	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会（見守り対象者名簿見直し） ・ふれあい委員研修会（坂本災害ビデオ鑑賞） ・役員研修会 ・福祉座談会 2 広報紙の発行（年1回 3月） 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・いきいきサロンリポーター研修会 ・いきいきサロン大会（オーフニング出場）				
独自事業等	4 町内親子グランドゴルフ大会（参加者85名） 5 大人の料理教室	4 ふれあい交流会（くま川学級生徒との交流） (コロナの影響によりバレンタインのチョコを配付) 5 友愛訪問(75歳以上独り暮らし・ティッシュ配付) 6 花いっぱい運動（民児協との共同） 7 老人クラブ演芸会支援（コロナのため中止） 8 独居老人への年賀はがき送付(八代小100名分) 9 災害時料理教室(ヘルスマイトによる料理講習会) (コロナのため中止) 10 世代間交流会 11 八代コミセンで花見（婦人会、民生委員の協力）	4 ふれあい交流会（各町内） 5 年末友愛訪問（見舞品贈呈） ・75歳以上一人暮らし・65歳以上寝たきり (※対象者は民生委員に調査依頼) 6 男の料理教室	4 敬老会（式典に代わり祝品配布） 5 植柳ふれあい祭り・盆踊り 6 夏休みの子どもの家（学習会・遊び・昼食） 7 冬休みの子どもの家（学習会・遊び・昼食） 8 シルバービンボン（毎週月曜）（コロナ禍で中止） 9 隅世代間交流（各町内、年1回）	5 役員研修（施設訪問）（コロナのため中止） 6 友愛訪問（75歳以上独居ティッシュ、ごみ袋配布） 7 日赤講習会（新型コロナウイルス感染防止の為中止） 8 世代間交流事業（各町内） (どんぐり、世代対抗ゲーム大会、ウォーキング、音楽鑑賞) 9 校区夏祭り				
松高校区福祉推進協議会	設立：平成7年8月28日	八千把校区福祉推進協議会	設立：平成5年9月20日	高田校区福祉推進協議会	設立：平成7年3月1日	金剛校区福祉推進協議会	設立：平成4年12月11日	郡築校区福祉推進協議会	設立：平成5年12月15日
地域概要	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	13 地区 12,875 人 5,827 世帯 29.0 % 3,728 人 46.8 歳 923,480 円 256 人 112 人 11 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	16 地区 14,549 人 6,829 世帯 29.0 % 4,218 人 46.9 歳 897,440 円 233 人 125 人 16 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	10 地区 8,209 人 4,034 世帯 36.0 % 2,959 人 50.8 歳 562,500 円 154 人 66 人 10 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	12 地区 5,304 人 2,315 世帯 38.9 % 2,063 人 52.3 歳 393,020 円 114 人 53 人 14 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数
共通事業	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会（コロナのため中止） ・ふれあい委員連絡会（町内） 2 福祉座談会（コロナのため中止） 3 広報紙の発行（年12回※まち橋だよりに記載） 4 いきいきサロンの支援 ・助成金交付・実施日を町内誌でPR ・サロンサポーター研修会（コロナのため中止） 5 サロンサポーター活動の充実（コロナのため中止）	1 ふれあい委員活動の充実 ・民児委員と合同研修 ネトワーカー帳作成・整理、講話、福祉座談会 ・ふれあい委員研修会 ・ふれあい委員活動について 認知症について 2 広報紙の発行（年2回） 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修会 ・助成金交付 ・四中生交流サロン（年1回） ・校區いきいきサロンの集い	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会 活動について・活動発表・対象者及び担当の確認 ・ひとり暮らし高齢者との交流会（コロナのため中止） 2 広報紙の発行（年5回※5年度は3回発行） 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・サロンサポーター研修会 ・第5回いきいきサロン大会（コロナのため中止）	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会議（坂本地区の福祉社会の取り組み ふれあい委員活動・対象者確認、生活支援コーディネーター事務） ・役員研修会（コロナのため中止） 地域づくりと健康、防災・避難所について 2 広報紙の発行（年2回 7月・1月） 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修（コロナのため中止） ・助成金交付	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会議（年2回） ・ふれあい委員名簿、見守り対象者名簿の整理 2 広報紙の発行（年1回）（未発行） 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修（コロナのため中止） ・助成金交付				
独自事業等	6 世代間交流事業 ・松高「ふれあい夏まつり」 7 校区歩け大会 8 敬老会（式典は中止し景品の配布を行った） 9 ふれあい交流会（独居高齢者）	4 男性の料理教室（年2回 9月・2月） 5 大やわらぎ祭り（世代間交流） ・発表会・コンサート 6 各種団体の交流 (民児協、老人クラブ、更生保護女性の会)	4 男性の料理教室（年1、1回） 5 一人暮らし高齢者年賀状友愛活動（77歳以上） 高田小1.2年生に依頼（対象128名） 6 町内福祉座談会	4 友愛訪問事業（75歳独居者に粗品プレゼント） 5 敬老の日式典 6 福祉交流グランドゴルフ大会 7 いきいきふれあい祭り・いきいきサロン大会 8 見守り活動	4 ふれあい福祉年賀状 ・一人暮らしの高齢者へ小学生から年賀状 5 救急法訓練（婦人会共催） 6 男性料理教室（婦人会共催）（中止） 7 炊き出し訓練（婦人会共催）（雨天中止） 8 ふれあいグラウンドゴルフ大会（まち協共催） (雨天中止)				

宮地地区福祉推進協議会		日奈久校区福祉推進協議会		昭和校区福祉会		二見校区福祉推進協議会		龍峯校区福祉推進協議会	
設立：平成6年11月18日		設立：平成5年12月8日		設立：平成4年11月4日		設立：平成7年11月8日		設立：平成7年10月5日	
地域概要	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	6 地区 3,156 人 1,486 世帯 38.7 % 1,221 人 52.0 歳 351,280 円 150 人 50 人 8 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	15 地区 2,371 人 1,267 世帯 56.2 % 1,333 人 61.5 歲 285,180 円 143 人 91 人 13 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	3 地区 1,212 人 549 世帯 30.1 % 365 人 47.8 歲 188,020 円 17 人 14 人 7 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	10 地区 1,440 人 756 世帯 54.9 % 790 人 62.1 歳 221,200 円 65 人 36 人 12 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数
共通事業	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会 ・ふれあい委員活動報告会（月1回） 2 広報紙の発行（年1回） 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修 ・市協からのアドバイス及び各専門分野の方に伝授	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会 ・福祉座談会（お互い様の日対象者を検討） 2 広報紙の発行（校内新聞掲載） 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・・・	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会（ふれあい委員・民生委員等） 2 広報紙の発行（1回） 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・・・	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会（2回） 先進地研修（熊本市大和地區社協（植木町）） 有償ボランティア活動について ・福祉座談会（ふれあい委員研修会時一中止） 2 広報紙の発行（年2回 7月・12月） 3 いきいきサロンへの支援 ・いきいきサロンサポーター研修会（コロナのため中止） 4 福祉座談会	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修（2回） 先進地研修（熊本市大和地區社協（植木町）） 有償ボランティア活動について ・福祉座談会（ふれあい委員研修会時一中止） 2 広報紙の発行（年2回 7月・12月） 3 いきいきサロンへの支援 ・いきいきサロンサポーター研修会（コロナのため中止） 4 福祉座談会	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修（2回） 先進地研修（熊本市大和地區社協（植木町）） 有償ボランティア活動について ・福祉座談会（ふれあい委員研修会時一中止） 2 広報紙の発行（年2回 7月・12月） 3 いきいきサロンへの支援 ・いきいきサロンサポーター研修会（コロナのため中止） 4 福祉座談会	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修（2回） 先進地研修（熊本市大和地區社協（植木町）） 有償ボランティア活動について ・福祉座談会（ふれあい委員研修会時一中止） 2 広報紙の発行（年2回 7月・12月） 3 いきいきサロンへの支援 ・いきいきサロンサポーター研修会（コロナのため中止） 4 福祉座談会	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修（2回） 先進地研修（熊本市大和地區社協（植木町）） 有償ボランティア活動について ・福祉座談会（ふれあい委員研修会時一中止） 2 広報紙の発行（年2回 7月・12月） 3 いきいきサロンへの支援 ・いきいきサロンサポーター研修会（コロナのため中止） 4 福祉座談会	
独自事業等	4 ふれあいハガキと友愛訪問 5 歩け歩け大会 6 民児協・福祉社会役員研修 7 どんどう 8 子供たち（宮地小）へのプレゼント 9 宮地小給食ふれあい会（75歳以上）	4 第9回日奈久校区いきいきサロンの集い（コロナのため中止） ・各町内サロンより演芸発表（コロナのため中止） 5 施設行事への協力 ・保寿寮「どんどうや火祭り」（コロナのため中止） 6 「お互いさまの日」 各6町内（窓ふき、除草、剪定、ゴミ出し等）支援 7 人権研修会	5 役員研修会（コロナのため中止） 6 敬老会・文化祭（コロナのため中止）	4 二見フードフェスタ（啓発ハーネル、地域交流） 5 敬老会（まち協と共催）（コロナのため中止） -記念品としおりを配付 6 グラウンドゴルフ大会（小中学校との交流会）（中止） 年3回（6月、10月、2月） 来年度は体協・PTAと共に予定 7 一人暮らし老人宅訪問 ・75歳以上の高齢者、タオル配付、生活状況伺 8 地域交流ウォーキング大会 9 精理教室（コロナのため中止）	4 二見フードフェスタ（啓発ハーネル、地域交流） 5 敬老会（まち協と共催）（コロナのため中止） -記念品としおりを配付 6 グラウンドゴルフ大会（小中学校との交流会）（中止） 年3回（6月、10月、2月） 来年度は体協・PTAと共に予定 7 一人暮らし老人宅訪問 ・75歳以上の高齢者、タオル配付、生活状況伺 8 地域交流ウォーキング大会 9 精理教室（コロナのため中止）	4 男性の料理教室（年1回）（コロナのため中止） 5 世代間交流・ふれあい麻雀会（小学生のみで実施） 6 校区敬老会（共催） ・式典は中止 対象者へは記念品を配布 7 ひとり暮らし高齢者のつどい（各町内） 対象者宅へ訪問し、記念品を配布 8 世代間交流事業（グランドゴルフ）	4 男性の料理教室（年1回）（コロナのため中止） 5 世代間交流・ふれあい麻雀会（小学生のみで実施） 6 校区敬老会（共催） ・式典は中止 対象者へは記念品を配布 7 ひとり暮らし高齢者のつどい（各町内） 対象者宅へ訪問し、記念品を配布 8 世代間交流事業（グランドゴルフ）		
坂本校区福祉推進協議会		千丁校区福祉推進協議会		鏡地域福祉推進協議会		東陽校区福祉推進協議会		泉校区福祉推進協議会	
地域概要	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	27 地区 2,545 人 1,361 世帯 63.9 % 1,626 人 66.6 歳 306,460 円 400 人 144 人 16 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	16 地区 7,335 人 2,976 世帯 31.2 % 2,292 人 47.9 歳 479,340 円 112 人 71 人 12 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	25 地区 14,011 人 6,085 世帯 35.7 % 5,006 人 50.3 歳 841,440 円 391 人 211 人 13 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	25 地区 1,864 人 814 世帯 48.6 % 905 人 58.0 歳 248,080 円 100 人 57 人 7 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数
共通事業	1 ふれあい委員活動の充実 ・ブロック別研修及び連絡会議(2地区×4回) 研修：被災＆コロナ禍における見守り活動等 連絡会議：見守り対象者の見直し、意見交換 2 広報紙の発行（年2回） 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修会（クレオン1000円パック） 助成金（新規10,000円、1,000円/回）	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会 ・対象者の選定・情報交換：各地区において実施 ・地区別一人暮らし高齢者・見守り対象者交流会 2 広報紙の発行（まち協との合同発行：年3回） 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・・・	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会議 ・事業説明、台帳整備、福祉座談会 2 広報紙の発行（年1回） 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・・・	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会議 ・・・	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会 ・見守り対象者台帳の整理等 台帳整備（5地区に分けて少人数で時間別に開催） ・福祉座談会 2 広報紙の発行（年1回） 3 いきいきサロンへの支援 ・・・	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会議 ・・・	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会 ・見守り対象者台帳の整理等 台帳整備（5地区に分けて少人数で時間別に開催） ・福祉座談会 2 広報紙の発行（年1回） 3 いきいきサロンへの支援 ・・・	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会 ・見守り対象者台帳の整理等 台帳整備（5地区に分けて少人数で時間別に開催） ・福祉座談会 2 広報紙の発行（コロナにより事業がなかったため発行なし） 3 いきいきサロンへの支援 ・・・	
独自事業等	4 第14回高齢者交流会（70歳以上） （※坂本中文化祭と共同開催） 一人でも多くの方に生徒の成果物や発表を見て聞いて 欲しいとの校長先生の依頼により実現。 （※今年度から独自だけでなく夫婦世帯も可） 5 ふれあい委員先進地研修（山都町社協） 6 久留米市校区福社会視察研修 受入	4 男性の料理教室（災害備蓄食の配布） 5 わくわく親子料理教室（食育料理を配布） 6 福祉のつどい ・講演、いきいきサロン・地区からの出し物 7 年賀状交流事業（75歳超独居者等、子供会協力） 8 各地区別一人暮らし高齢者・見守り対象者交流会（中止） ・講話、ゲーム、情報交換会、会食懇談 9 住民参加型生活支援事業「ふれあいの日」（中止） 見守り対象者の困りごとに對し、地域住民が手助け をする支え合い活動	4 福祉グラウンドゴルフ大会 5 一人暮らし高齢者新春カードプレゼント（1月開催） アトラクション鑑賞、小学生との交流、合同給食会 一集いは中止となつたが、 その代わりに小学生（高学年）に新春カードの 作成を依頼し、一人暮らしの高齢者の方へ配布した。 6 福祉団体スポーツ大会・ニュースポーツ大会 7 見守りウォーキング事業（認知症に関する研修会） 8 敬老会（主管）→式典はコロナの為中止。 対象者にはメッセージ・記念品を贈呈した。 10 契約タクシー利用促進事業 優待制度（…とんかうちょに決定） タクシーやトクホー、カシタ…作成配付、ベンチ作成依頼等 11 合志市須屋地区福社会視察研修 受入	4 ひとり暮らし高齢者のつどい（70歳以上） ・コロナの影響により生活用品を配布した。 5 地区別見守り組織推進座談会 (福祉座談会と同時開催)（コロナのため中止） 6 地区別福社会見守り会（コロナのため中止） 地域の困りごとを各地区で話し合い	4 料理教室（コロナのため中止） 5 ひとり暮らし高齢者の見守り訪問（70歳以上） ・コロナの影響により生活用品を配布した。 6 地区別福社会見守り会（コロナのため中止） 地域の困りごとを各地区で話し合い				

## 令和5年度 事業報告付属明細書

社会福祉法施行規則第2条の25第3項に定めのある事業報告の付属明細書には、記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

社会福祉法人八代市社会福祉協議会